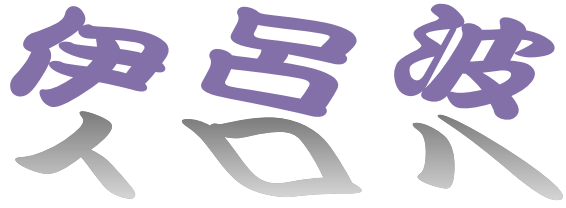


第1回  
だい かい

# 日本語の教え方

に ほん ご おし かた



## 日本語教師の役割、コースデザインについて考える

に ほん ご きょう し やく わり かんが

日本語国際センター専任講師 久保田美子  
に ほん ご こくさい せん にん こう し く ぼ た よ し こ

海外で活躍している日本語教師のみなさんから、よく「日本語教授法を知りたい」「すぐに使える授業活動を提供し  
てもらいたい」という要望をいただきます。

今号から始まる「日本語の教え方イロハ」のコーナーでは、日本語国際センターの専任講師が、日本語の教え方を学  
んだことのない方に、「コースデザイン」や「読解」「会話」「聴解」「評価」などの基本的な教授理論、教授知識を分かりや  
すく解説します。既に日本語を教えている方も日本語教授法に関する基礎固め、知識の再点検にお役立てください。

第一回目は、日本語教師の役割とコースデザインについて考えます。具体的な教え方や評価の方法などについて考える前に、まず教師の役割は何か、教えることをどのような姿勢で捉える必要があるのか考えてみましょう。

### 1. 日本語教師の仕事を振り返る

まず日本語教師の役割について考える前に、日本語教師にはどのような仕事があるか考えてみましょう。今、日本語教師をしている方は自分自身の仕事のリストをつくってみてください。まだ教えていない方は、どんな仕事があるのか想像して書いてみましょう。

例)「教案を書く」「授業をする」「成績をつける」「試験問題をつくる」……

いかがでしたか。書き出したものを眺めながら次の質問に答えてみてください。

- 1) その中には「教えること」だけでなく「学ぶこと」も含まれていましたか。
- 2) その中には「教室の中」「学校の中」ですることだけでなく、「学校の外」ですることでも含まれていましたか。

もうお分かりのように、教師の仕事は、「教えること」だけではありません。教えながら同時に学ぶこともたくさんあります。さらに、教師会に参加して勉強したり、常に新しい教え方に興味をもって勉強したりする「学ぶこと」も大事な仕事です。また、教師の仕事は学校の中だけではありません。地域の日本人コミュニティの活動に協力し、学生と日本人との交流をはかったり、同じ地域の教師と教

え方について相談したりすることも大事な仕事です。

### 2. 日本語教師の仕事をする上で理解しておくべきこと

次に仕事をする上で理解しておかなければならないことは何か考えてみましょう。

まず身近な例から考えてみることにします。たとえば「明日の授業の計画を立てる」ときのことを考えてみてください。その仕事をするために、あなたはどのようなことを視野に入れて考えていますか、また考えなければならないと思いますか。

「明日の授業の計画を立てる」ために、実はかなり多くのことを考えているはずなのです。「学校(機関)」「教師」「学習者」「コースの目標やスケジュール」「教える内容」「教え方」「教材・教具」「評価・テスト」など、様々な項目に関することを考えているのではないのでしょうか。そしてこれは、一つの日本語コースを設計する、いわゆるコースデザインをするときと同じことなのです。教師はとにかく皆さんの知識があれば良い、また、教える技術が豊富であれば良いと考えていませんか。教師には、知識の広さや技術の豊富さだけでなく、授業を組み立てるときにコース全体に関わる様々な要素を考慮して考える視野の広さも必要なのです。

### 3. コースデザイン

次にこのコースデザインのポイントについて考えてみましょう。

## コースデザインの流れとチェックポイント

知っていますか？

**学校・機関のこと**

自分の学校や機関、あるいは地域の教育方針

**教師のこと**

自分も含めてどのような教師が教えるのか、人数、特性、能力など

自分も含めて教師たちの教授スタイル、教師観

**学習者のこと**

学習者が学ぶ理由や目的

学習者の学習経験

学習者の現在の能力

学習者の学習スタイル



上のことをよく理解して、次のことを決めましたか？

決められていますか？

**コース目標**

コースが終わったときに学習者ができること（知識だけでなく、その知識を使って何ができるか）

**教える内容**

文字、語彙、文型、機能、場面、話題、4技能のどこに重点を置くか、何を中心に教えるか

教える内容の量やバランス、順番

**スケジュール**

細かい授業分担や全体のスケジュール

**教え方**

どのような教え方をするか

具体的な練習方法や教室活動

**教材・教具**

教科書（主教材）

副教材

教具

**評価・テスト**

評価方法、テスト方法

採点者

結果の利用法

左の図は、コースデザインの流れと各時点でのチェックポイントを書いたものです。

どのような立場で教えていてもコース全体のことを把握しておく必要があります。また2で考えたように、日々の授業のことを考えるときにも、この図にあるような項目を常に意識する必要があります。自分自身の場合をふり返り、左の図の各項目の□にチェックしてみてください。

チェックした結果はどうでしたか。全ての項目について既によく知っている、よく考えて決めてあるという人は少なかったのではないのでしょうか。これからも授業の計画を立てるときに、ときどき思い出して参考にしてみてください。

ここでは、「日本語教師の役割／コースデザイン」について考える上でのヒントを、ごく一部分ご紹介しただけですが、興味のある方は参考文献リストを見てさらに勉強してみてください。

### <参考文献>

- 岡崎 眸・岡崎敏雄 (2001) 『日本語教育における学習の分析とデザインー言語習得過程の視点から見た日本語教育ー』凡人社
- 川口義一・横溝紳一郎 (2005) 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック上・下』ひつじ書房
- 国際交流基金 (2006) 『国際交流基金日本語教授法シリーズ1 日本語教師の役割／コースデザイン』ひつじ書房 (7月出版予定)
- 小林 ミナ (1998) 『日本語教師・分野別マスターシリーズ よくわかる教授法』
- 高見澤孟 (2004) 『新・はじめての日本語教育2 日本語教授法入門』アスク語学事業部
- 田中 望 (1988) 『日本語教育の方法ーコースデザインの実際ー』大修館書店
- 三牧陽子 (1995) 『日本語教師トレーニングマニュアル⑤ 日本語教授法を理解する本 実践編 解説と演習』バベル・プレス

## 国際交流基金 日本語教授法シリーズ《全14巻》

国際交流基金は17年間にわたり、世界約90カ国、6500人にのぼる海外の日本語教師を招へし、研修を行って来ました。本シリーズは、その経験から培われた「教え方」の集大成です。

**B5判**  
予価：各巻500～700円



いよいよ刊行！

第7巻  
読むことを教える  
ISBN 4-89476-307-9

第1巻  
日本語教師の役割／  
コースデザイン  
ISBN 4-89476-301-X

JAPAN FOUNDATION 国際交流基金

ひつじ書房  
〒112-0002 文京区小石川5-21-5  
tel:03-5684-6871 fax:03-5684-6872  
toiawase@hituzi.co.jp www.hituzi.co.jp/